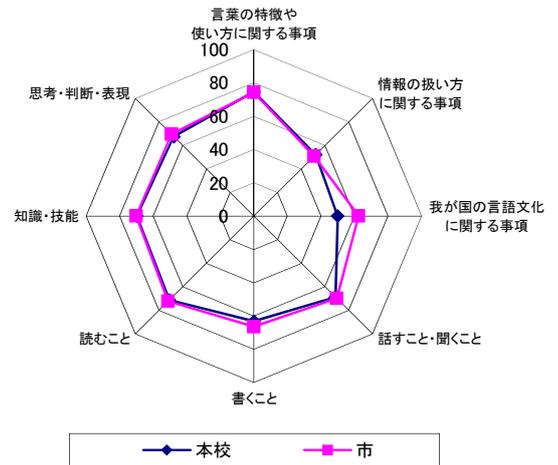


# 宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	74.3	74.8
	情報の扱い方に関する事項	52.1	50.9	48.4
	我が国の言語文化に関する事項	50.0	62.4	60.8
	話すこと・聞くこと	68.8	69.9	69.7
	書くこと	63.1	66.4	64.6
	読むこと	71.3	72.3	71.0
観点別	知識・技能	69.7	70.1	70.0
	思考・判断・表現	67.5	69.5	68.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

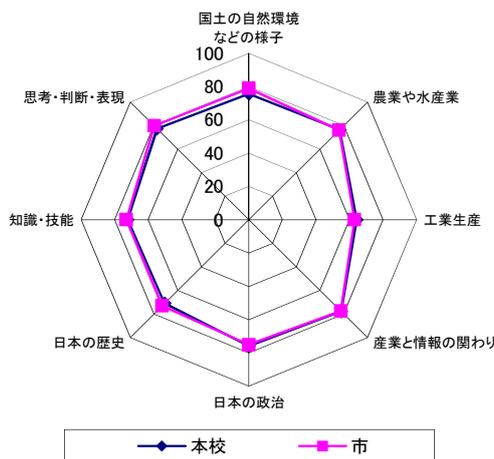
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、74.7%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。」設問では、前後の文の意味から正しい漢字を選ぶことができ、良好な状況が見られる。</li> <li>●「尊敬語について理解し、正しく使っている。」設問では、市の平均を5.8ポイント下回っており、「尊敬語の使い方」に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・漢字を覚える時には、様々な読み方や熟語とともに覚え、同音異義語に気を付けさせるなどして、今後も漢字を適切に使えるよう指導していく。</li> <li>・様々な敬語に触れさせ、正しく敬語を使えるよう指導していく。</li> </ul>
情報の扱い方に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、52.1%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。」設問では、文章から必要な言葉を見つけ出し、短くまとめることができ、良好な状況が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語以外の教科においても、資料から分かることを書き出したりまとめる活動を今後も取り入れて指導していく。</li> </ul>
我が国の言語文化に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、50.0%と市の正答率より12.4ポイント下回った。</li> <li>●「漢字の由来について理解している。」設問では、「漢字の成り立ちについての理解」が低く、課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を覚えるだけではなく、辞書で意味を調べたり起源を調べたりするなど、様々な情報と一緒に覚えさせるようにし、力を向上させていく。</li> </ul>
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、68.8%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「話し手の目的に応じて、話の内容を捉えている。」設問では、相手が伝えたいことを理解して聞くことができ、良好な状況が見られる。</li> <li>●「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合っている。」設問では、市の平均を5.2ポイント下回っており、話し合いに沿わない意見に対してどのように声を掛けるか考えることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話を聞くことはよくできているので、今後も最後まで話を聞く態度を育てていく。</li> <li>・話し合い活動をするときには、司会者を全員が経験できるように工夫したり、話をそれとときに司会者としてどのような声を掛ければよいかなどを考えさせたりするなど指導を工夫し、テーマに沿った話し合いを行う力を向上させていく。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、63.1%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。」設問では、必要な情報を組み合わせて文章を書くことができ、良好な状況が見られる。</li> <li>●「事実を基に自分の意見を明確に書いている。」設問では、市の正答率を5.6ポイント下回っており、「多くの条件に合わせて自分の意見を述べる。」ことに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から分かることを組み合わせ、まとめることはできているので、そこへ自分の意見を取り入れたり、他の情報を追加させたりと、長文への対応もできるように指導していく。</li> <li>・自分の考えを書かせる時間を積極的に取り入れたり、条件に合わせて文章を書いたりするなど工夫し、書く力を向上させていく。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、71.3%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「登場人物の行動について、描写を基に捉えている。」設問では、登場人物の発言から心情を考慮することができ、良好な状況が見られる。</li> <li>●「文章を読んでまとめた感想を共有し、自分の考えを広げている。」設問では、市の平均を8.0ポイント下回っており、「文章の言葉を具体的に使って感想を述べる。」ことに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の様子や言葉から心情を考慮することができているので、今後も、文章を基により深く読み取る指導を継続していく。</li> <li>・文章を読み取ったり感想を書く時には、文章のどのような部分からそう考えたのかを明確にして伝えられるように指導したり、友達の意見は、文章のどの部分から出てきたものかを考えさせたりし、文章と考えを関連付けていく力を向上させていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.6	78.9	75.4
	農業や水産業	76.5	76.1	71.2
	工業生産	64.2	62.9	59.4
	産業と情報の関わり	77.9	77.6	59.7
	日本の政治	75.8	75.0	79.3
	日本の歴史	71.1	73.1	72.8
観点別	知識・技能	72.3	73.0	71.4
	思考・判断・表現	77.4	79.8	71.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

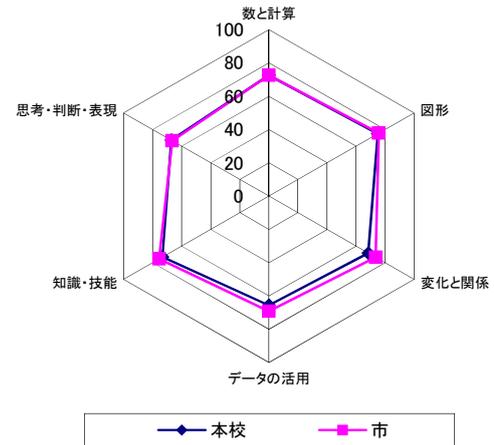
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、75.6%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○津波から生活を守る取り組みについての問題の正答率は94.7%で良く理解している。</li> <li>●日本の主な地形の名称と位置の理解を基に、地図を読み取る問題の正答率は45.3%で課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</li> <li>・社会科の時間だけでなく、さまざまな機会を捉えて話題にあげ、積極的に地図で位置を確かめさせたり、解説したりすることで、地理に対する関心を高め、自ら調べ、理解しようとする意欲と態度を育成するようにする。</li> </ul>
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、76.5%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○都道府県の位置の理解をもとに、米の生産量についての表を読み取り、白地図にまとめる問題の正答率は65.3%で、市平均の正答率を3.6ポイント上回った。</li> <li>●日本の農業人口をめぐる課題について、資料を読み取る問題の正答率は78.9%で、市平均の正答率を4.4ポイント上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取り考察する力を育てるために、引き続き、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。</li> <li>・引き続き、稲作体験や食育指導、家庭科と関連付けて指導していく。</li> </ul>
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、64.2%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○日本の鉱物資源の輸入について、資料を読み取る問題の正答率は74.7%で、市平均の正答率を9.1ポイント上回った。</li> <li>●大工場と中小工場の理解を基に、資料を読み取る問題の正答率は47.4%で課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の工業生産についての理解をさらに深めるために、機会を捉えて、身近な工業製品や環境保全の取り組みについての話題や資料を提供し、自分の生活と工業を結び付けて考えられるようにする。</li> </ul>
産業と情報の関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、77.9%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○インターネットを利用するときの注意点についての問題の正答率は91.6%で良く理解している。</li> <li>●資料に着目して、コンビニエンスストアのポイントカードの利点を考え、表現する問題の正答率は64.2%で、市平均の正答率を2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を読み取り考察する力を育てるために、引き続き、資料を基に社会的事象について説明したり、自分の言葉でまとめたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。</li> <li>・メディアに対する関心を高めるために、ICTを活用した授業を計画的に実施するようにする。</li> </ul>
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、75.8%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○日本国憲法の三原則についての問題の正答率は75.8%で、市平均の正答率を6.4ポイント上回った。</li> <li>●非核三原則についての問題の正答率は73.7%で、市平均の正答率を6.2ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法の基本的な考え方を理解し、日本国憲法と政治が、自分たちのくらしとどのようにつながっているのかについて考えたり調べたりする活動を、授業で積極的に取り入れるようにする。</li> <li>・自分たちの生活の場面やニュースなど身近な事象を話題にあげ、自分の生活と憲法や政治結とび付けて考えられるようにする。</li> </ul>
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、71.1%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○織田信長の勢力拡大について、資料を基に判断する問題の正答率は92.9%で、良く理解している。</li> <li>●弥生時代のむらの様子や人骨の資料に着目して、弥生時代の人々のくらしを捉え、表現する問題の正答率は67.4%で、市平均の正答率を10.7ポイント下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、各単元や単元間における、時間の経過・事象や人々の相互関係に着目して、学習内容や自分の考えをまとめる活動を続けていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.6	72.6	73.1
	図形	75.0	75.7	74.7
	変化と関係	68.4	73.6	66.1
	データの活用	65.6	69.2	70.7
観点別	知識・技能	73.3	75.5	74.4
	思考・判断・表現	67.1	66.5	67.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、72.6%と市の正答率と同じである。</li> <li>○「分数の計算」において、小数の乗法の考え方を基に、整数×分数の計算のしかたを考え、説明する問題では、市平均の正答率を11.9ポイント上回っている。</li> <li>●「分数の計算」において、分数÷分数(約分あり)の計算問題では、市平均の正答率を8.6ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の考えを根拠を明確にして文章で書く訓練を行っていた効果が表れていると考えられる。今後も、友達の考えに対してまたは基にして自分の考えを文章で表現する活動を、積極的に授業で取り入れていくようにする。</li> <li>・約分するのを忘れる＝計算の中で約分をする意識が十分でないと捉え、計算過程における子どもの思考の中に、「約分をする」という概念を育てるための指導を適宜振り返りながら行うようにする。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、75.0%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>○「対称な図形」において、線対称な図形の対応する点を見つける問題では、市平均の正答率を6.4ポイント上回っている。</li> <li>●「面積と体積」において、高さが図形の外側にある平行四辺形の面積を求める式を選択する問題では、市平均の正答率を5.8ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・線対称や点対称などの図形については、図を描く、対称となる線や点を見つけるといった実践の場を増やし、図形に慣れるような活動を増やしていく。また、図形を描いたり、対称の点を探したりする際は、図にメモを書くといった情報を整理する技能の定着が図れるようにする。</li> <li>・必要な情報を整理し、順を追って考え、答えを導き出せるように、思考プロセスを大切に授業を常時行うようにする。また、図形のしくみや成り立ちについて基礎・基本を徹底させる。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、68.4%と市の正答率より5.2ポイント低い。</li> <li>●「単位量あたりの大きさ・速さ」において、速さの単位の関係を理解し、分速や秒速や時速に直す問題では、市平均の正答率を10.1ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位変換については、苦手傾向が強いため、授業の中で教師が意識的に単位変換について考えさせたり、「単位のしくみ」について振り返ったりすることで、児童にとって単位がより身近なものとなるように指導していく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域の正答率は、65.6%と市の正答率とほぼ同じである。</li> <li>●「平均・データの見方」では、値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求める問題では、市平均の正答率を6.4ポイント下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均の見方において、「0の値をどう捉えるか」という点について児童の考えの中に迷いがあったと考えられる。今後、様々な場面での平均の見方についての経験値を増やしていく。</li> </ul>

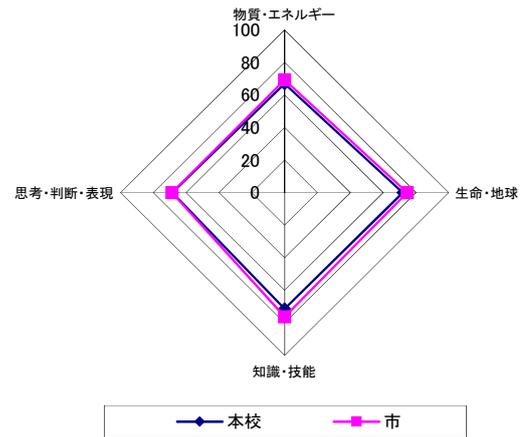
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

# 宇都宮市立豊郷南小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.0	69.3	65.7
	生命・地球	72.1	74.7	77.8
観点別	知識・技能	71.3	76.2	76.4
	思考・判断・表現	68.4	68.7	68.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>・領域での正答率は、67.0%と市の正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「ものが水にとって透明になった液のことを水溶液とすることを理解している。」の設問では、市の平均を6.8ポイント上回った。</p> <p>●「ふりこの一往復する時間の求め方を理解している。」の設問では、市の平均を12.8ポイント下回った。また、「ランタンの上の穴のはたらきを調べるために比較する実験を指摘できる。」の設問では、市の平均を8.5ポイント下回った。正確な実験結果を得るための方法や実験の条件統制などについて考えることに課題がみられる。</p>	<p>・物質・エネルギー領域における自然現象についての正しい知識や思考する力は身に付いてきている。今後も引き続き、課題→予想・計画→実験→結果→考察の手順を踏まえた論理的思考が養われる授業を続けていく。特に、予想・計画を行う場面を重要視し、児童が立てた予想から、必要な実験手順や条件統制を考える活動を充実させる。児童主体で活動することを通し、適切な実験方法を考える力が養われるような授業を展開していく。</p>
生命・地球	<p>・領域での正答率は、72.1%と市の正答率とほぼ同じである。</p> <p>○「日光が植物の生育に必要なことを、葉のでんぷんをつくるはたらきの観点から記述できる。」の設問では、市の平均を6.0ポイント上回った。</p> <p>●「進路予想図と台風の動き方を理解している。」の設問では、市の平均を9.1ポイント下回った。また、「メダカが水の中の生物を食べていることを理解している。」の設問では、市の平均を9.3ポイント下回った。台風や食物連鎖などの自然現象についての知識の定着に課題がみられる。</p>	<p>・天気や気候が変化する仕組みや食物連鎖など、身近に感じるものがあまりない自然現象に関する知識の定着に課題がみられる。天気予報の天気図など身近な活用例を授業に取り入れることで、身近に感じにくい自然現象の知識の定着を図っていく。また、映像教材やタブレット端末を活用し、調べ学習など児童主体で学習を進めることで、身近に感じにくい自然現象の理解が深まるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立豊郷南小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
根拠を基に考え、伝え合い、 深め合う算数科の指導に取り組む	・根拠を基に考える活動の充実を図る。 ・伝え合い、深め合う場面での数学的活動の充実を図る。	・「自分の考えを根拠をあげながら話すことができる」の肯定割合は、3年生66.7%、4年生75.6%、5年生65.4%、6年生78.8%であった。特に4、5、6年生の割合は市と比べて高くなっている。
主体的に学習に取り組む児童の育成に取り組む	・授業のねらいを明確化し、児童に分かる「めあて」の設定と、授業の終末に理解度や自分の変容を確認する「振り返り」の時間を確保する。	・質問紙の結果から、学習に進んで取り組んでいる児童は、ほとんどの学年で市の肯定割合よりも高かった。また、授業で習ったことを分かりやすくノートにまとめることも4、5、6年生の割合は市の肯定割合と比べて高かった。

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- ・学校全体で、主に説明文の授業において、めあてを精選したり、板書やワークシートを工夫したりしながら、文章を正しく読み取る力や自分の考えを書く力を育成するための効果的な手立てについて研究していく。また、授業の研究とともに、朝の学習の時間を使った読解力を高める学習や読書の推進などの日常的にできる読む力の育成にも取り組んでいく。
- ・各教科の実践の中で、自分の考えを書いたり、説明したり、友達と伝え合ったりする活動を意図的に設け、国語で培った力を生かせるようにする。